

青年部長等研修会（主張発表大会）概況

定刻となり、司会者、県青連上村副会長は開会を宣し、県青連若田部長及び県連渡部専務理事が挨拶をした。

その後、司会者の朗読により「商工会青年部宣言」と「誓いの言葉」を斉唱し、開会終了後の午後1時45分から青年部主張発表大会が開催された。

株式会社新潟日報社報道部 笹川経済担当デスクが審査委員長となり、新潟県産業労働観光部産業政策課 神山参事、県連合会 渡部専務理事、県青連 若田部長、兼田組織指導課長の5人により審査が行われた。

<発表順とテーマは別紙のとおり>

各発表者とも、聴衆に訴えかける見事な発表であった。内容も、青年部員にとって今後の活動のヒントとなる興味深いものばかりであった。

全発表の終了後、審査委員による審査の間、16時00分から、全国商工会連合会 商工会組織強化推進本部 本部長 大高 衛氏、全国商工会青年部連合会 相談役 宮本 周司氏による研修会を行った。内容は以下のとおり。

研修会第1部 「商工会と青年部組織のあり方について」

講師 全国商工会連合会 商工会組織強化推進本部
本部長 大高 衛 氏

大高氏は地元の千葉県にて家業の醤油製造業を営んでいる。28歳で青年部に入り、今から三期前の全国商工会青年部の会長をしていた。商工会に興味があったわけではないが、気が付いたら長く活動していたという。その根本には、青年部に入ったら、家業が売り上げを伸ばし、利益を出すことができる、という部員勧誘を最終的にはしたいという思いがあるのだと述べられた。

青年部に入っても、祭りやイベントなどの話は活発に行われるのだが、商売の話、売上を伸ばすための事業などが一切なされなかった。そこにメ

リットを見いだせず、自分で変えようとしたという。33歳のときに部長になり、経営発表会などを企画した。青年部に入ったのであれば、一人前の商人、地域人として卒業したい、卒業させたいという思いからであった。

楽しいだけで、なんのメリットもなかったら、国からみたらただのお荷物である。また、私たちが良くならなければ地域は廃れていくし、地域が廃れれば商売も成り立たない。地域に住んでいる商人のポテンシャルが上がれば地域は良くなる。そして、そのための青年部であるべきだと強調された。大分の由布院は、3人組が、何もないゼロの状態から、工夫してあそこまでの一大温泉地にした。これがポテンシャルであると述べられた。

景気が悪くても、伸びていく会社、地域は伸びていく。そこには高いポテンシャルがあり、青年部をそういったものを培う場にしてほしいと語った。そしてしっかりした地域人、商人として旅立たせてほしいと激励された。最後に、それぞれの御商売、地域の発展を祈念され講演を終えた。

研修会第2部 「『自立』と『自律』～答えは常に自分の中にある～」

講師 全国商工会青年部連合会

相談役 宮本 周司 氏

まず、講師の自己紹介・自身の事業・酒業界の説明からはじまり、商工会青年部の2本の柱として、経営者・後継者として資質を向上させる活動、地域を元気にしていく地域振興事業があることを述べられた。その後、商工会組織の利活用、経営者にとって必要なものについて講演された。

まず、大手や中堅企業に対抗するために、商品・サービス・技術などなんでもいいので強みをもってほしいと語った。そのために青年部を活用すべきである。青年部員はそれぞれの会社の柱であり、厳しい目を持っている。その部員たちに、商品・サービス等を評価してもらい、そして改善作業を行っていく。マーケティング的に利用し、資質向上に役立ててほしいとのことだった。

また、経営を預かる者として、日々の努力と、取捨選択が重要であると語った。できるかどうかではなく、何をやって、何をやらないかが重要である。伸びていくためには、できなくてもやらなければいけないことがあり、それが見えたなら、あとはやるかやらないか。厳しくできるのも、甘くできるのも自分。最終的に決めているのは自分自身なので、答えは自分の

中にあると述べられた。

最後に、自分の強みをしっかり持ち、やらなければならないことをしっかり実践して、どんどん成長し、強くなってほしいと述べられた。そして、青年部活動を通じて、一つでも二つでもなにか成長してほしい。そのような青年部にしていってほしい。その成長が、会社や地域の元気に繋がっていくからと激励され講演を終えた。

研修会終了後の17時40分より、表彰式が行なわれた。

はじめに成績発表が行われ、最優秀賞は県産業政策課神山参事、優秀賞は県連渡部専務理事、優良賞は県青連若田部会長からそれぞれ表彰状の授与を行った。

その後、審査委員長の新潟日報社報道部 笹川経済担当デスクから、受賞者ごとに講評をいただいた。

表彰結果並びに講評内容は以下のとおり。

最優秀賞（県知事表彰）	柿崎商工会青年部	曾田 直人
優秀賞（県連会長表彰）	松之山商工会青年部	島田 怜
優良賞（県青連会長表彰）	巻商工会青年部	齋藤 桂

・柿崎商工会青年部 曾田 直人

「話し方が上手かった。インパクトがあり、強く印象に残った。地域貢献のため、地元じゃない人が地域に入って活動していくといった辺りが他と違っていた。地元じゃない柿崎をよく知って、貢献しようとしているのがすばらしいと感じた。関東大会に向けて話し方などもっと進化させてほしい。」

・松之山商工会青年部 島田 怜

「話の内容が非常によく、全国でも上位にいける素材。松之山温泉の取組みはとても良いものだと感じた。しかし、青年部としてどう関わったかなど話が薄かった。もっと青年部を前面に出していればなおよかった。」

・巻商工会青年部 齋藤 桂

「エピソードが具体的で非常によかった。最初で緊張してしまったのか、短くなってしまったのが残念だった。」

18時00分から、県青連木村副会長の進行のもと懇親会が開催され、

今回は、参加者の交流を目的に、くじ引きによる席決めを行った。

最後に県青連小山副会長の締めの挨拶により全日程が終了した。

(1 9 : 3 0)